

YAコーナーに新しく入った本からピックアップ。

YA 通信

No70 2016年7月号
春日井市図書館発行

YA(ヤングアダルト)世代=10代のみなさんのための読書情報誌です。ご紹介する本は特に記載がない限り、図書館3階YAコーナー所蔵です。

New!!



『写真のなかの「わたし」 ポートレイトの歴史を読む』 鳥原 学/著 筑摩書房 74/シ/16

スマートフォンで手軽に高画質の写真が撮れる。インスタグラムやフェイスブックなどのSNSの発達。誰もが写真を撮り発信する現在、世界には写真があふれています。なぜ、私達はこれほど写真を撮ったり見たりすることに夢中になるのでしょうか。この本は、人の顔を写したポートレイト写真に着目し解説しています。ポートレイト写真の誕生から、記念日の写真や証明写真、ファッション雑誌、プリクラや自撮り写真、コスプレ写真まで。写真を撮る人、撮られる人、見る人は何を求めてきたのでしょうか。また、ポートレイト写真の進化は、YA世代の流行と密接に関わりがあることも見えてきます！ちょっとマジメに写真について考えてみませんか？



名作たからばこ



『シェイクスピアストーリーズ』 シェイクスピア/原作 アンドリュー・マッシュューズ/文 アンジェラ・バレット/絵 島 式子, 島 玲子/訳 BL出版 93/ヒエ/15

3階児童

オススメするのはこの本に掲載されている『ロミオとジュリエット』です。劇作家・シェイクスピアが『ロミオとジュリエットの悲しい物語』という物語詩を元に書いたと言われる舞台用のお話で、初演は1595年頃。今から400年以上前に作られました。(ちなみに日本は戦国時代、豊臣秀吉のころです。)

敵対した家に生まれた2人は一瞬で恋に落ちますが、出会ってはいけない2人だったので・・・この展開にいつの時代も女の子は“キュンッ”と切なくなるのではないのでしょうか？

さすがにこのお話の結末みたいな恋はしたくないですが、ここまで愛せる出会いをしてみたいものです。そんな思いにさせてくれる1冊です。

海

夏の楽しみ、といえば海。安直なような気もしますが、やっぱりこれは外せませんね。ただ、忙しくて、海が遠くて、日焼けが怖くて、様々な理由で行けない人もいるでしょう。そんな方はお家で今回紹介する本を読んでみてはいかがでしょうか。

『メキト・ベス漂流記』 西魚 リツコ/著 角川書店 F/ニシ/11,12-2,12-3

海で囲まれた小島、ダルキース島に住む少女エマと少年ナオは、ある日、月色の瞳の美しい青年を浜で拾います。彼をメキト・ベスと名付けたエマたちは、大人たちからかくまいますが、ある出来事から見つかってしまい、一緒に海を渡る巨大船『黒と赤の船団』に乗ることに。

ダルキース島には、たくさんの掟があって、生まれたときから島を出ることが決まっているエマと、掟に縛られたくないナオ。ふたりは、メキト・ベスが王朝をゆるがす存在であることを知り、彼を狙う貴族たちから守ろうと立ち上がります。大海と船を舞台に繰り広げられる、三部作の冒険ファンタジーです。



『深海生物のひみつ 本当にいる奇妙なモンスターたち』 北村 雄一/著 PHP研究所

481.7/シ/11 4階一般

深海はカコクな世界。深くなればなるほど気温は低くなるし、光が届かない。そうなるとう当然、餌だって少なくなります。そんな世界に住む深海生物がすごくないわけがないと思いませんか？

例えば、深海生物で有名なダイオウイカ。大きさは触腕をいれると最大18mで、目玉の大きさはサッカーボール大！！そんな大きな生き物が海の中を自由に泳ぐ。もうこれだけでびっくりですが、そんな深海の生物がこの本にはリアルな絵として掲載されています。（そういえば最近、深海生物を食べる会みたいなのがニュースで流れていましたが、ダイオウイカは普通のイカと違っておいしくないそうです）



『カツオ・マグロのスーパーパワー 一生泳ぎ続ける魚たち』 阿部 宏喜/著

恒星社厚生閣 48/カ/12

カツオ・マグロと言えば、鮨屋やスーパーマーケットの魚売り場でおなじみの魚です。「好きな魚はマグロ」と答える人もいるでしょう。しかし、どんな特徴を持った魚か知っていますか！？陸上より酸素が少なく前進しにくい海中で、一生泳ぎ続けるカツオ・マグロ。その体には人間も顔負けの、驚異的かつ合理的なメカニズムが存在しているのです。カツオ・マグロの体の謎に迫ってみませんか。絵や写真、グラフを用いて分かりやすく説明されています。動物そのものに興味を持ち、体の成り立ちをひも解いていけば、「生物＝暗記することが多い」という固定観念が崩れるかもしれません。そんな気づきも得られる一冊です。

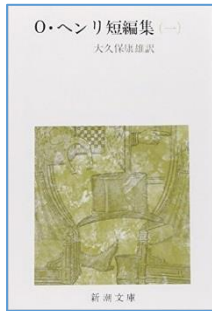


『海の波を見る』 光易 恒/著 岩波書店 452.5/ウ/074 4階一般

皆さんに海を想像してもらおうと、たいていの人が、波打っていたりうねっていたりと、動きのあるものを想像するのではないのでしょうか。実際、本当に凪いでいる状態は沖に出てもめったに見られないそうです。さて、そんな海に付き物の波ですが、いったい何処から来るのでしょうか。この本は様々な波が生まれて育って砕けていく様をカラー写真とともに解説しています。



ボランティアさんのオススメ本 (アリスの会さん)



『O・ヘンリ短編集 1～3』 O・ヘンリ/著 大久保 康雄/訳 新潮社
933.7/オ/13-1～13-3

3階一般

いつこの作者に出会ったのだろう。たとえば「賢者の贈り物」、貧しい夫婦が互いに贈ったクリスマスプレゼントは、互いの大切なものをなくして、相手の大切なものに見合うものだったなんて、滑稽で悲しすぎると思うのに、なぜか忘れがたい物語になっている。そして、どうしてこれが「賢者」なのかと考えさせられてしまう。他にもそんな話がこれでもか、というようにやってくる、O・ヘンリーって何者？

話のタネに！



最近、113番元素の名称として“ニホニウム”と命名する案が発表されました。欧米以外の国が新しい元素を発見して命名権を認められるということは初めての事でとても快挙だとされています。しかし、このことに限ったことではないですが、科学的な事ってなんとなくすごいのはわかるんですけど、何がどうすごくて大変なのか、このことがどう役に立つのか具体的なことがよくわからないことが多いですね。というわけで今回はそんな科学のことがすこーし身近に感じられるような本を紹介します。



『科学に魅せられた日本人』 吉原 賢二/著 岩波書店 40/カ/01 3階児童

新元素の命名を日本人が行うということが話題になっていますが、実はこのずっと前にも名前を付けられるかも知れないということがありました。その名も「ニッポニウム」。しかし、残念ながらこの名前が付けられることはありませんでした。この夢と消えた名前をめぐる科学者たちの物語とはいかに。

他にも科学に人生をかけた人たちの話が収録されています。



『あの元素は何の役に立っているのか？』 左巻 健男/著 宝島社 431.1/ア/13

4階一般

一番目の元素、水素(H)から始まって、皆さんは何処まで勉強されましたかね。少なくとも高校では20番までは覚えるらしいですけど……。さて、今回日本が発見・命名する元素は113番目ですが、元素ってそんなにあるの？水素とか酸素とかはなんとなく解るけど、タンタルとかアメリカシウムとかだとさっぱりですよ。この本はそんな元素の来歴や使い道を紹介しています。今回話題の元素は一体どう使われるのでしょうか。



YA担当イチオシ!

『世界一ときめく質問、宇宙一やさしい答え』

ジェンマ・エルウィン・ハリス/編 河出書房新社 03/セ/15

4階一般

どんな本?

イギリスの子どもたちが投げかけた、「本はなぜあるの?」「どうして右と左があるの」といった131個の素朴な疑問に対して、111人の世界の第一人者が答えています。

ここがオススメ!

みなさんは、自分の身近にある、単純そうだけど簡単には答えのわからない疑問に出会ったことはありませんか?この本は、中には、はっきりした答えがでていないものもあるけれど・・・子どもたちの素朴な疑問に対する答えを知ることがができます。また、答えだけでなく、その問いへの考え方なども教えてくれます。

世の中には、おとなになっても知らないことが山ほどあります。この本は、そんな知識の隙間を埋めてくれる一冊です。

YA(ヤングアダルト)コーナーって?

図書館3階雑誌コーナーのとなりです。たとえば、こんな本があります。



- ◎10代向けの小説・読み物
- ◎勉強・進路・職業に関する本
- ◎いろんな悩みの解決に役立つ本
(学校生活・友だち・恋愛・家族・心と体 など)
- ◎自分の世界を広げるための本(趣味やスポーツ)

「〇〇について調べたい!」
「△△の本はどこ?」など、
本に関する相談や探し物は
職員に気軽に聞いてみてね。

春日井市図書館

春日井市鳥居松町 5-44 TEL(0568)85-6800

<http://www.lib.city.kasugai.aichi.jp/>

ケータイサイトはQRコードから→

